

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600103		
法人名	株式会社 実善		
事業所名	京塚温泉 グループホーム 笑みの里暖輪		
所在地	群馬県中之条町入山3257		
自己評価作成日	令和3年2月11日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

変更・京塚温泉の源泉を引いており、常に入浴でき心身も心も和らぎます。自然も豊であり、春から秋にかけて庭先の草花と触れ合ったり、畑の野菜を収穫したりと季節を感じています。また地域の協力病院と連携し、月に2回往診に来て頂いています。そして入居者様一人一人に合った介護が出来るように、スタッフ一同連携・相談をして入居者様の状態を把握出来る様に心掛けています。入居者様が地域の一人である事を忘れない様に今後も、夏祭りや地域合同文化祭に参加したり、地域の踊りや歌などの慰問ボランティアの方に来所してもらうようにします。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価の結果を受け、実際に行動を起こし災害対策に取り組んだ。水害地域にあり、高台にあるコミュニティーセンターを避難場所として、管理者、利用者が実際に訓練をやってみると、避難にかかる時間(30分)や使用する車両、今後の課題が判明した。利用者、職員の生命を守るためにやらなければならない課題解決へのさらなる取り組みを期待したい。また、布パットを使用することにこだわりを持つ利用者の排泄支援について、利用者の思いを大切にし、その人らしさを尊重する姿勢がうかがえた。そして、そういった本人のこだわり等がケアに反映される基になっているものが介護計画で、職員との情報共有に基づいて、しっかり計画が立てられていることがわかった。運営者のグループホーム開設の考えから、利用者の個を大切にしたいケアが実践されている背景がうかがえる。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年3月18日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(コロナウイルス終息までなし) (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【その人らしい生活が出来る介護】を理念としている。入居者様への支援が統一して出来るように、申し送り・カンファレンスなどを行うようにしている。	職員と利用者が同じ地元同士であるため、家族のような関係性があり、職員の目標である「利用者の思いに沿ったケア」が実践されている時、管理者は職員が理念を理解していると捉えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雪が降る季節以外は、近隣を散歩し地域のと話しをしたり、夏祭り・文化祭などに参加し交流の場を持てるように心掛けて居る。昨年の夏祭りは施設の中で夏祭りを行った。	現在は地域のイベントは中止になっているが、ケーブルテレビ「くにっこチャンネル」から文化祭の作品作りをしている様子取材され、地域に情報を発信したり、職員からも地域の情報も得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の会場にて皆様に、意見を頂きサービスの向上に努めている。	現在は書面開催としている。入居者現況報告、行事報告を「笑みの里暖輪状況報告書」としてまとめ、家族、行政、その他の運営推進会議のメンバーに郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に施設の利用状況などを相談し、協力関係を築いていくよう心掛けて居る。	介護保険の更新代行、認定調査の立会いをしている。また、コロナ感染についての情報交換等を通して、町役場担当者と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマット使用は拘束である事を理解し、家族に同意を取り実施している。スタッフの配置状況により出入り口を手動にするよう心掛けて居る。	現在、3名の利用者が家族の同意を得て、センサーマットを使用している。玄関は開錠している。スピーチロックについては転倒の危険がある利用者以外は、行動の制止はしないよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で虐待について話し理解し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合関連施設、町の担当者と相談し協力して支援をしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者様、その家族に理解しやすいように説明し契約を十分理解して頂き契約をしている。解約の際も同様に話し合い合意の上で解約する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し立ての説明をする様に努めている。また、入居者様、ご家族にどのような要望が有るか、会話の中でくみてる様に心掛けている。	利用者は1対1の状況の時胸の内を話すことが多く、職員は内容を記録し共有している。家族とは面会後に話す時間を設けたり、2ヶ月に1回写真付きの手紙を送り、様子を知らせ、感想を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りなどで情報交換や相談、それを共有出来るようにしている。またスタッフから業務改善の提案があれば話し合いより良い運営が出来るように心掛けている。	職員が意見や提案を気軽に話せる雰囲気作りをしている。職員間のコミュニケーションもよくとれており、管理者は意見等の集約に努め、運営者に相談し、改善すべきところは適宜対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の状況を把握し、意見を聴きながら向上心を持って働ける職場環境になるように努めている。また状況に応じて実践を評価し昇給を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や交流会に参加してもらう様促し、技術・知識・質の向上に向け実践に繋がるように考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町や近隣の病院のソーシャルワーカーから、情報交換会・交流会の案内を貰い、参加することで質の向上になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様、が居る場合は、事前にスタッフ間で情報を確認している。入居後は空間に慣れるまで言動や表情を観察し安心して生活が出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様、ご家族に会い入居前の生活状況を伺い、何に困っているか、何を必要としているか確認し、それに合ったサービスが提供できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を伺い、それに合ったサービスの提供に努めている。入居後も希望に沿って生活出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日がマンネリ化しない様、苦痛にならない様、嗜好に合った暮らしやすい環境を整えその人に合った接し方をする様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には、生活情報の変更や食事摂取の変更などについても申し出てもらえる様に声掛けをしている。又同じ心境に立てるよう御家族様に寄り添い話掛けやすい環境を作る様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様と馴染みの人や、場所との関係性を理解し支援に努めている。	孫が産まれた家族に手紙を書く手助けやガラス越しで面会をする工夫等、利用者と家族の関係性の継続を支援している。また、趣味や好きな食べ物等を聞き、日常のケアに反映させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルが起きない様入居者様同士の性格の不一致や言動に日々注意している。また入居者様同士で助け合い、相談し合える関係が築けるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際には、終了後も相談しやすいように声掛けをする様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がどのような生活を望んでいるか入居前に確認し、希望に沿った生活が出来るようにしている。	ケアマネジャーと直接話ができる利用者の思いはそのまま、上手く話せない場合は家族からの話も合わせて把握し介護計画に反映させている。思いを捉えられなかった場合はその旨を記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や面会時に聞いた情報を共有し、その方らしい生活が出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や受診した情報などを記録し、情報を共有して現状を把握する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人、家族、必要関係者と話し合い、意見や要望を聞いた上でご本人様にとってより良い生活が送れるように介護計画を作成している。	毎月職員全員でモニタリングをし、カンファレンス後介護計画に反映させている。また、3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。その際、担当者会議を開いている。計画に沿ったケアの記録がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況やADL、受診時の様子など状態把握をスタッフ間で徹底しており、状態の変化などあれば、話し合い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々過ごす中で生じる様々なニーズに寄り添える様な柔軟なサービス提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解したうえで活用し、入居者が穏やかに安心して生活が出来るように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明の時にかかりつけ医の確認を行っている。協力病院の受診で良ければ月に2回の往診があると説明し、入居者様、家族様の希望を聴き適切な医療を受けられるよう努めている。	月2回協力医と看護師の往診を受け、それ以外にも他の協力医に受診することができる。現在は全員が近くの診療所の往診を受けている。歯科の受診には職員が付添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の後は状態把握ノートの記入を徹底し看護職員に伝達し施設内でも的確な看護が提供出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、入院先の地域医療連携室と連携をとり入居中の情報、入院先での情報などを交換し把握しあい入居者様が早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期には今後起こりうる状態を本人様、家族様、協力医、地域関係者と話し合い適切な支援が出来るようにと考えている。	事例もあり、看取りの希望があれば実施している。現在1名の利用者から看取りの希望があり、協力医から家族に病状報告をしている。職員も適切な支援ができるよう体制作りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルを作成してありスタッフで共有している。救急車の要請手順を作成し、誰でも対応できるよう掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している小規模多機能と協力しあい避難出来るように訓練している。京塚の公民館に避難出来るよう地域と連携している。また食糧や水の備蓄は用意している。	消防署の立会いのない自主避難訓練を実施している。訓練は玄関までとし、利用者も水消火器を用いた訓練に参加している。3日分の米、缶詰等を備蓄し、プロパンガスの用意を検討している。	現在は自主訓練を中止しているが、緊急時、災害時に対する日頃の訓練として再開し、さらに回数、経験を重ねる取り組みをしてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人間性を尊重し声掛け、対応をしている。また個々に過ごせる時間を設け、話を聴くなど安心して生活が出来るようにしている。	一人ひとりの利用者の特性を理解し、その人らしさを尊重すること、また、個人情報の保護を心がけている。異性介助になる場合は同意を得てからとし、話しかけ方や声のトーンにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが慌てず余裕を持って行動するように心掛けることで、入居者様が思っている事や感じている事などを言いやすい環境、人間関係を築ける様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に希望を聴き、希望に沿った生活が出来るように毎日取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に美容室に訪問してもらい散髪が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、毎日の献立を掲示している。キザミの方には献立の説明をする様に心掛けている。お膳を下げるなど入居者様が要望があればスタッフと一緒にかたづけをしている。	配食サービスを利用しているが、利用者に要望がある時は食事を止めて応じている。時期に合った伝統食や行事食、馴染みの食事を提供し、飲み物はできる限り要望に応えられるよう用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は毎日観察し、水分補給状況は夏場や入居者様の健康状態により観察する様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは個別に声掛けし行っている。入居者様のADLに合わせ、見守りや軽介助など個々に対応し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄動作の状態を把握し、その方に合った支援が出来るようにしています。また状態の変化変化などがあった場合はその都度検討するよに心掛けている。	トイレで排泄する支援に努めている。トイレ誘導は時間ではなく自然の流れの中で声かけをしている。夜間も要望があれば付添い、布パット、リハパン、おむつを柔軟に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の改善、予防を心掛け定期的な運動や水分補給などに心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表は無く、希望時に入居者様の体調を見ながら実施している。	入浴好きな利用者に声かけをし、皆で一緒に入るといった雰囲気を作ることで、気が進まない利用者も入浴ができるような工夫をし、順番に実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう本人様の使い慣れた寝具の持ち込みを可能にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一同で内服薬情報を共有し変更があった場合は申し送りや状態把握ノートに記入する事でスタッフ全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や面会時に聴いた情報を元に、その方に合った時間を過ごしてもらえるような援助をする様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があれば希望に沿って付き添うようにしている。また、外出する際は家族の方と連携を取り外食や自宅に寄ってくるなど希望に沿って外出が出来るよな支援をしている。	コロナ禍にある他、外出には時期的な限定もあるが、隣接する小規模施設との交流やドライブに出かけている。また、畑で作るきゅうり、かぼちゃ、いんげんの水やりの為外に出ることがある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出で買い物に行く際は可能な限りスタッフが見守りながら会計を行っている。また、毎週来所される移動販売のパン屋さんの買い物の際には一緒に会計をするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望のある時は、ご家族とも相談し希望に沿って伺っている電話番号に掛けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窗より自然の光が入るようになっており一人一人のスペースは広くゆったりと過ごせるようにしています。また、入居者様と作成した季節の壁画や作品を飾ったり、春夏には庭先の草花を飾ったりしている。	大人らしい空間作りを心がけながら、ぬり絵のカレンダーや季節感がある手作り作品を飾り、話題作りをしている。また感染予防、生活臭対策の為、ホールの天窗を開けたり、換気扇で換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う入居者様同士で同じテーブルの席にしたり、誰でも座れるベンチを設置して気持ち良く過ごせるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は、使い慣れた寝具、家具、食器など持ち込みが可能な事を話している。又家族やペットの写真を飾ったりして過ごしやすい居室になるように心掛けている。	馴染みの羽毛布団やテレビ、ラジオ、鏡や化粧品等の日用品を持ち込んでいる。踊りが好きだった利用者はラジカセで音楽を聞いている。家族やペットの写真を飾り、自分らしい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人の残存機能を理解し共有しそれを踏まえて個々に合ったケアを行うようにしている。		